


こいでがわかせんかいしゅう かんれんいせきぐん		
小出川河川改修 関連遺跡群		
所在地	茅ヶ崎市下寺尾 高座郡寒川町大曲	
時代	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中・近世	

調査概要

【縄文時代】

土器や石器は西方貝塚の所在する台地のすぐ下から出土しました。時期（じき）は西方貝塚と同じ縄文時代前期の関山（せきやま）～黒浜（くろはま）式のものです。

【弥生時代】

弥生時代後期～古墳時代初頭の川の跡が発見されました。川の跡からは当時の人々が使用していた木の道具が腐らずに残っていました。中でも平成17年の調査で発見された「エブリ」（写真1）や建物に出入りするための「棒梯子（ぼうはしご）」は貴重（きちょう）な発見に



▲弥生時代 エブリ

なりました。「エブリ」は水田耕作のための道具で、当時この地に住んでいた人々が稲作をおこなっていた大切な証拠となるものです。

【古代】

奈良～平安時代は、調査地点の周辺に古代の寺院（じいん）や役所が営まれた時期です。70軒以上の竪穴住居跡（たてあなじゅうきょあと）が発見され、寺院の屋根を葺（ふ）いていたと思われる瓦（かわら）をはじめとして大変多数の遺物が出土しました。特筆（とくひつ）される遺物に、屋根の棟（むね）を飾（かざ）っていた鬼瓦（おにがわら）や、仏前（ぶつぜん）に清めた水を供えた浄瓶（じょうへい）、同様に水や花を供えた水瓶（すいびょう）や花瓶（けびょう）とみられる灰釉陶器（かいゆうとうき）の出土があげられ、ともに寺院と関連するものと考えられます。また、東西南北に計画的に配置された掘立柱建物（ほったてばしらたても）の跡も発見されています。こうした配置（はいち）は一般的な集落（しゅうらく）に見られるものではなく、寺院か台地上に位置した郡の役所に係わる施設であった可能性があります。平安時代に属する川の跡も発見され、呪（のろ）いに使用された木製（もくせい）の人形（ひとがた）（写真2）が出土しました。古代に属する人形の出土例としては神奈川県で初めてのもので、やはり寺院や役所に係わるものと考えられます。

【中世】

中世では、13～15世紀代の川の跡と、これにつながる大溝（おおみぞ）が発見され、大規模（だいきぼ）な地形改変（ちけいかいへん）の可能性が考えられます。

川跡と大溝からは、素焼きの「かわらけ」や常滑（とこなめ）の甕（かめ）や鉢（はち）の破片（はへん）、中国で焼かれた青磁（せいじ）や白磁（はくじ）の碗（わん）等が出土しています。

また、五輪塔（ごりんとう）や「貞和（じょうわ）三年（西暦（せいれき）1347年）二月」の銘（めい）をもつ板石塔婆（いたいしとうば）が出土しています。

このように、小出川河川改修関連遺跡群では各時代にわたる様々な遺構・遺物が出土しています。今後の出土品整理を通じ、この地域の歴史的な景観（けいかん）の変遷（へんせん）を明らかにしていきたいと考えております。



▲古墳時代 3号墓棺室蓋石出土状況